

デジ活で生まれる新たな楽しみ方

観光DXは、行政機関である観光庁の主導のもと、全国各地で取り組みが進んでいます。ここでは、その事例やメリットをご紹介します。

観光DXの事例

オンラインで予約・支払い

オンライン上で24時間いつでも宿泊先を予約や事前支払いができる施設が増えています。事前に計画を立てやすくなり、より充実した観光を楽しめるほか、オンライン利用でポイントを貯められることも。

最適な情報を届ける

施設などの歴史・文化に関する情報をまとめたアプリにより、現地の魅力をより深く知ることができます。また、AI技術を活用して翻訳した情報を文字や音声でリアルタイムに提供するなど、多様な観光客に対応したサービスも充実しつつあります。

新たな体験

周辺地域限定のデジタル通貨を発行して、現金で支払うよりもおトクに楽しめる取り組みが増えています。また、オンラインツアーを利用すれば、現地へ足を運ぶことが難しい人も、その場にいるかのように観光を楽しめます。

混雑の緩和

観光時のストレスといえば、混雑や道路渋滞です。近年では過去の来場者数やリアルタイムな人の動きを分析し、情報発信する取り組みが増えており、これらを参考にすれば、効率的な観光周遊や交通渋滞回避ができるようになります。



コロナ禍で観光業界は大きな打撃を受けましたが、厳しい状況から脱却し、元通りではなく「新しい観光のかたち」を考える絶好の機会にもなりました。観光とデジタル技術を掛け合わせたサービスは、ますます広がっていくことでしょう。

皆さんも観光にデジタル技術を活用し、新たな楽しみ方を見つけてみてはいかがでしょうか。

用語解説

観光DX デジタル技術やICTの導入により、観光の体験価値の向上を目指す取り組み。観光資源とデジタル技術をかけ合わせることで、観光産業をさらに発展させる試みが始まっている。

みなさんの「困りごと」を教えてください

「デジタルが苦手」、「これってデジタルで解決できないの?」、「日常でこんな悩みがある」など、みなさんが暮らしの中で感じている困りごとをお聞かせください。



▲ご意見はこちら



お問い合わせ先 総務課 行政係 ☎ 0965-52-7111



暮らしに身近になってきたICT・デジタル技術について、さまざまな情報を発信する連載企画「#デジ活」。今回のテーマは「観光DX」です。コロナ禍の影響を大きく受けた観光業のこれまでの動きと、新サービス提供や顧客の体験向上に向けたデジタル活用についてお届けします。

コロナによる観光分野への打撃

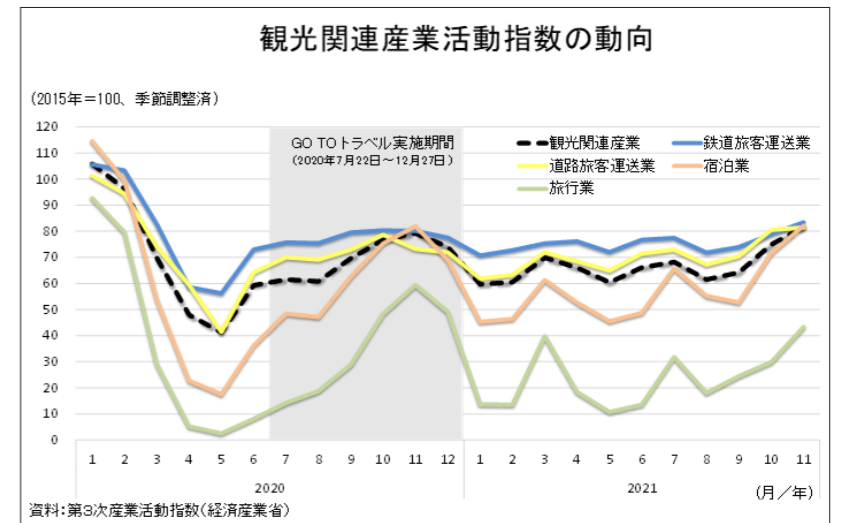
令和2年から始まった新型コロナウイルスの感染拡大で、私たちのあらゆる「移動」が制限されました。家族や友人などに会えず、辛い思いをした人も多いのではないのでしょうか。同時に、日本をはじめ各国が実施した渡航制限措置などの影響で、観光分野は大打撃を受けました。

経済産業省の調査によると、観光を含むサービス産業は、新型コロナウイルスの発生直後から今までにない苦境に立たされ、他の分野と比較しても特に影響を受けたことがわかりました。

令和2年7月からは、観光事業の追い風となるGoToトラベル事業がスタートし、回復の兆しが見える時期もありましたが、繰り返す感染拡大の波や緊急事態宣言による外出自粛の呼びかけによって、業界内では試行錯誤が続きました。

しかし、最近は感染の波が落ち着いたこともあり、国は5月から新型コロナウイルスに関する法律上の分類を、インフルエンザと同じ「5類」に引き下げることを決定しました。

手洗いや咳エチケット、3密回避は継続しながらも、旅行やイベントなどの厳しい制限は見直されることとなります。



新たな取り組み「観光DX」がスタート

新型コロナウイルスが出現してからの3年間で、感染症に対処しながら生活を維持する「新しい生活様式」は社会全体に浸透してきました。

ですが、いつ新たな感染症が世界中に広がっても不思議ではありません。

観光業界では、不測の事態にも対応し、人々に観光サービスを提供し続けるため、デジタル技術

を活用した「観光DX」に取り組みはじめています。

3密回避や非接触型サービスが求められるなか、オンライン予約やキャッシュレス決済ができる環境の整備や、観光地での交通や各施設を快適に利用できる仕組みづくりなど、デジタル技術の活用によって、観光のあり方が大きく変化しようとしています。